

# 海外活動

## 海外活動の進め方

日時：平成20年2月10日（日） 10:00～12:00

講師：龍田 成人（アジア日本相互交流センター代表）

### 概況

---



#### ■ICAN の始まり

ICAN はその名のとおり、「私にできること」から始まりました。パタヤスを訪れた際、ごみの山に暮らす人々の現状を目の当たりにし、「何かしてあげたい」という思いから、会社員の友達4人と資金を出し合い、1994年12万円の資金から活動を始めました。

現在、200名以上の会員を有する大きな団体となりました。仕事柄経験があった、インターネットが追い風になったと思います。95年にホームページを立ち上げ、96年にメーリングリストで情報公開を始めました。

#### ■パタヤスごみ処分場周辺の地域開発

フィリピンの首都マニラにあるパタヤスごみ処分場には毎日六千トンものごみが運ばれ、野積み状態になっています。その周辺に1万人の人々が住んでおり、三千人前後の人々がごみの中から換金できる資源を集めて生計を立てています。00年7月には、ごみ山が大崩落し、二百人以上の人々が生埋めになりました。住民は衛生状態も栄養状態も悪い中、安定した収入も無い状態で暮らしています。ごみ山から流れる黒い川で遊ぶ子ども達は、学校にも通えません。医療施設にも行けず命を落としてしまう場合もあります。

そこでICANはごみ処分場に一番近い場所に診療所(ケアセンター)を構え、住民たち自らが、保健医療サービス提供の担い手となり、コミュニティが持続性のある高度な保健環境を持つことを目的に活動しています。住民が、医療や事業運営の知識

を得て、住民たち自身が活動を進めています。この中心的役割を果たすのが、お母さん達によるヘルスケアボランティアです。毎日の問診や必要な処置を担っています。もちろん、医師・看護師との連携事業も行っていますが、コミュニティの状況を一番知っているのは住民なのです。

始めからこの事業の形があったのではなく、スタッフや現地の人々の想いや力でこのような事業の形が生まれ育ったのだと強く感じています。

#### ■ICAN が目指すもの

お金をもっている人が「してあげる」は、きっかけとしては大事だと思いますが、続きません。現地の住民が自ら活動を担っていくことを、「わたしができること」を持寄り「ともに」活動することが ICAN の活動です。そして、活動の積み重ねで「みんなが健康に」なれたらと思います。